

「祇王・Guiuō」を巡って 4

市井外喜子 (大東文化大学名誉教授)

A Study of “Guiuō” 4

Tokiko ICHII

要旨

天草版平家物語 Guiuō 章段には「vototoi」が見られる。古典平家物語祇王章段にも「おととい」が見られる。

天草版平家物語では、次のように出てくる。

「例えば、そのころ都に聞えた白拍子の上手に祇王、祇女という vototoi のものがござったが、とちと言う白拍子が娘であった」(巻第二第一)

古典平家物語 国会本(百二十句系統本) 巻第一第五句 義王には、当該箇所が次のように出ている。

「たとへば、そのころ京中に白拍子の上手義王、義女とておとといあり。これはとちといふ白拍子のむすめなり。」

また高野本(覚一系統本) 巻第一 祇王には、次のように出ている。

「たとへば其此、都に聞えたる白拍子の上手、祇王・祇女とておとゝいあり。とちといふ白拍子がむすめなり。」

「vototoi」は、この他に6例見られる。古典平家と天草版平家に見られる7例の「おととい・vototoi」を、『日葡辞書』(1603年 長崎刊)を基準にし、天草版平家の依拠本を吟味したものである。

目次

- 1 はじめに
- 2 vototoi = 姉妹
- 3 vototoi = 兄弟
- 4 yſſacuſjit = ^{いっさくじつ}一昨日：おとゝひ・^{おととひ}一昨日
- 5 おわりに

参考図書

1 はじめに

これまで『大東文化大学紀要』人文科学に、「祇王・Guiuō」を巡って を3度報告してきた。まず、それぞれの要旨を記しておく。

- 1 『大東文化大学紀要』人文科学 第54号(2016年3月)に報告した「祇王・Guiuō」を巡っての要旨は、次の通りである。

古典平家物語では巻第一に位置する「祇王」章段が、天草版平家物語では巻第二冒頭に「祇王清盛に愛せられたこと：同じく仏という白拍子に思いかえられてのち、親子三人尼になり、世を厭うたことと、またその仏も尼になったこと。(以降、Guiuō章段とする)」として位置している。この古典平家物語から天草版平家物語への「祇王」→“Guiuō”位置の大移行は、編者不干ハビヤンの意図によるものと考えられる。天草版平家物語巻第一・巻第二の構成からその意図を探り、“Guiuō”章段の位置を吟味した。

- 2 『大東文化大学紀要』人文科学 第56号(2018年3月)に報告した「祇王・Guiuō」を巡って2の要旨は、次の通りである。

古典平家物語(高野本)「祇王」章段には、仏の用いる自称詞「わらは」、清盛・祇王の母・祇王・仏等のそれぞれの間で用いられる対称詞「わごぜ・(わごぜたち)」が見られる。自称詞わらは、対称詞わごぜ(わごぜたち)は、状況に影響されることなく、わらは・わごぜである。一方天草版平家物語「Guiuō」章段には、仏の自称詞は「varaua」に加え、新しく「vatacuxi」が用いられている。祇王-仏間の対称詞には、「わごぜ」が新しい「fonata」へと変化を見せている。「祇王」章段から、「Guiuō」章段への、時代の新しい空気を人称詞(自称詞・対称詞)が担っている様子を吟味した。

- 3 『大東文化大学紀要』人文科学 第57号(2019年3月)に報告した「祇王・Guiuō」を巡って3の要旨は、次の通りである。

- ① 祇王章段が古典平家巻第一から移行し、天草版平家巻第二冒頭章段 Guiuō 章段となることにより、巻第二の平家衰亡の前兆が明確に描かれることになる。Key word は「fuxiguina coto」の連鎖と、「年頃日ごろもあればこそあったに」の連鎖にある。
- ② 壇浦合戦後の建礼門院を一括して描く『灌頂巻』を持つ高野本(覚一系統本の代表として)を核として、『灌頂巻』を持たず、分散して建礼門院を描く国会本(百二十句系統本の代表として)、屋代本(古態を残す語り本系の代表として)の特徴、および天草版平家の建礼門院を観察した。高野本では、巻第十二までは目立たなかった建礼門院が十分に描かれ、叙情的な要素も濃い。一方国会本では、建礼門院は時間の流れに沿って、分散して描かれ、記録的な・叙事的な要素が濃い。天草版平家物語の建礼門院は、国会本に近い描写が多く、仏教臭を排除し、より叙事性が濃くみられる。『灌頂巻』で注目されるのは「女院死去」である。奇端往生を遂げる建礼門院が叙情的に描かれている。

今回もこれまでと同じく天草版平家物語：Guiuō章段に注目し、「祇王、祇女という vototoi の

ものがござったが、とちと言う白拍子が娘であった。」に見られる「vototoi」を古典平家物語諸本と比較・吟味した結果を報告する。

天草版平家には7例の「vototoi」が見られる。吟味の基準としたのは、『日葡辞書』1603年 長崎刊（『邦訳日葡辞書』土井忠生・森田 武・長南 実 編訳 岩波書店）の語義である。

vototoi ヲトトイ（一昨日）一昨日

vototoi ヲトトイ（おととひ）年上と年下の二人の兄弟

vototoi ヲトトイ（おととひ）二人の兄弟または姉妹

上記の語義を持つ「vototoi」を、次の『平家物語』によって確かめることにする。（9本）

- 1 屋代本 『屋代本高野本対照平家物語』 新典社
- 2 百二十句本（斯道文庫本）『百二十句本平家物語』 汲古書院
- 3 百二十句本（国会本）新潮日本古典集成『平家物語』 新潮社
- 4 百二十句本（京都本）『平家物語百二十句本』 思文閣
- 5 覚一本（高野本）新日本古典文学大系『平家物語』 岩波書店
- 6 龍大本 日本古典文学大系『平家物語』 岩波書店
- 7 葉子十行本 日本古典全書『平家物語』 朝日新聞社
- 8 流布本 『平家物語』 おうふう
- 9 延慶本 『延慶本平家物語』 勉誠社

なお天草版平家物語は、『天草版平家物語対照本文及び総索引』（江口正弘著 明治書院）を用いる。

『天草版平家物語』は、1592年イエズス会天草学林から出版され、原本名を『日本の言葉とHistoriaを習ひ知らんと欲する人のために世話にやはらげたる平家の物語（FEIQE NO MONOGATARI）』とするものである。

聞き手兼進行役をつとめる右馬の允（VM.）と、話し手の喜一検校（QI.）が「兩人相對して雑談をなすがごとく」にとの編纂目標にしたがって、「検校の坊、平家の由来が聞きたいほどに、あらあら略してを語りあれ」と右馬の允が請い、喜一が「やすいこととござる：をうかた語りまらしょうず」と受けて、平家物語の大略を、当時の話し言葉によって語る（対話形式）ものである。これがキリスト教布教のために来日した当時のイエズス会宣教師のための日本文化・日本語学習のテキストである。

2 vototoi = 姉妹

天草版平家物語に、唯一 vototoi = 姉妹の語義を持つ章段は、巻第二第一 祇王清盛に愛せられたこと：同じく仏という白拍子に思いかえられてのち、親子三人尼になり、世を厭うたこと、またその仏も尼になったこと。である。右馬の允に促されて喜一検校は、次のように語り出す。

喜. 長いことなれども、申さうず。清盛わこのやうに天下を掌に握られたによって、世間の謗を

もはばかりず、人の嘲りをもかえりみいで、不思議なことのみをせられてござる。例えば、そのころ都に聞えた白拍子の上手に祇王、祇女という vototoi^①のものがござったが、とちという白拍子が娘であった。

国会本（巻第一第五句 義王）では、次のようである。

入道相国かやうに天下をたなごころににぎり給ふあひだ、世のそしりをもはばかり給はず、不思議の事をのみし給へり。たとへば、そのころ京中に白拍子の上手、義王、義女とておととい^①あり。これはとちといふ白拍子のむすめなり。

傍線部「義王、義女とておとといあり。」を、古典平家諸本で示すと、次のようになる。表1とする。

表1

	題 目	天草版 ① vototoi
屋代本	義王義女仏閉事 ^{同出家事 (抽書) 注3}	義王義女トテ兄弟 ^{注1} 有り。
斯道文庫本	第三句義王	義王義女トテ兄弟 ^{キヤウ} アリ
国会本	第五句義王	義王義女とておとといあり。
京都本	第五句ぎわう	ぎわうぎによとて、おと、ひあり。
高野本	祇王	祇王・祇女とておと、い ^{注2} あり。
葉子十行本	妓王	妓王妓女とておととひあり。
流布本	妓王	妓王妓女とておと、ひあり。

注1 頭注 兄弟 おととい『日葡辞書』ヲトトイ、二人の兄弟または姉妹

注2 脚注 「おととえ」（弟兄）の転。兄弟姉妹

注3 目次には、巻第一白拍子義王仏等事^{但有別紙}

表1の義王・義女、祇王・祇女、妓王・妓女の漢字は、諸本により異なりが見られるが、『日葡辞書』記述にあるように、vototoi = おととひ（仮名表記）が、姉妹の語義を持つことは明白である。また、屋代本の「義王義女トテ兄弟有り」、斯道文庫本の「義王義女トテ兄弟^{キヤウ}アリ」から「兄弟」が男女の区別なく、女性の姉妹にも用いられていることが注目される。

以上、語り本系諸本の「おととい」を見たが、読み本系の代表として「延慶本」の様子を見ることにする。

其比都ニ白拍子二人アリ。姉ヲバ義王、妹ヲバ義女トゾ申ケル。天下第一ノ女ニテゾ有ケル。此レハ閉ト云シ白拍子ガ娘ナリ。

上記のように延慶本「義王義女之事」には「おととい」が現われない。

古典平家諸本間には「おととい」の有無、表記上の差異等がみられるが、天草版平家の「vototoi」は、古典平家の「おととい」に依拠しているといえる。

『平家物語』には、「祇王」章段を持たない諸本もある。語り本系：高良神社本・寂光院本、読み

本系：源平闘諍録、四都合戦状本・長門本等が注目される。

他の作品に見られる「おととい」関連の記述を、あげておく。

- 花鳥風月（室町中期以前）もとは出羽の羽黒のものにて候、おとゝひ候が、あねをば花鳥、いもうとをば風月と申て、
- 謡曲、玉井（1516 項）豊玉姫御兄弟は御出なされ：女性の姉妹を「兄弟」
- 人情本、英対暖語（1838）実の姉弟（ケウダイ）より睦ましく
- 姉と弟（1892）唯姉弟（キョウダイ）の子供が右左から取ついて：「姉弟」の振り仮名が「ケウダイ・キャウダイ」。兄と弟に限らず、姉と妹・姉と弟の場合でも「キャウダイ」が用いられている。

方言辞典にみられる「おととい」の記述もあげておく。

- 『日本方言大辞典』（徳川宗賢監修 小学館）の「おととい」には、①兄弟・姉妹、②一昨日の二義がみられる。この語義を担う県（郡市等は略し、県単位として全体の様子を探る）の分布特徴をみると、日本列島の両端に②一昨日が分布し、日本列島の中央部（近畿・中国・四国）に①兄弟・姉妹が分布している。両語義の分布領域がそれぞれの占有地域を示していることが注目される。

①兄弟・姉妹 ②一昨日の両義がともにみられるのは、三重・島根の両県のみである。

三重県

①兄弟・姉妹：おととい 三重県伊賀（大日本国誌 内務省地理局）おとて 三重県志摩郡（三重県方言資料集 北岡四良）

②一昨日：おとて 三重県度会郡（地方方言集 度会郡教育会）

島根県

①兄弟・姉妹：おととい 島根県大田市（島根県に於ける方言の分布 島根県女子師範学校編）おとて 島根県出雲（同上）

②一昨日：おと一ち 島根県隠岐島（島根県方言辞典 広戸惇・矢富熊一郎）

- 『現代日本語方言大辞典』（平山輝男編集代表 明治書院）からは、「きょうだい：兄弟・姉妹」をみることにする。

注目されるのは、圧倒的な分布領域を持つキョーダイ類に対して、中国・四国5県（鳥取・島根・岡山・広島・徳島）のオトドイ類である。

鳥取県

オトドイ 昔からの言い方。よく言う。

キョーダイ 兄弟、姉妹、兄妹など、すべてに言う。

島根県

オトテ 兄弟・姉妹を言う。

キョーダエ

広島県

オトドイ ①兄弟の総称 ②父母を同じくする兄弟

岡山県

キョーデー 血縁の男兄弟だけをオトデーと言って区別することもある。女姉妹はオナゴキョーダイ

徳島県

オトドイ

さらに『全国方言辞典』（東条操編 東京堂出版）の「おとどい：兄弟」からは、日本列島中央部の分布領域の確かさをみることができる。「おとどい」の二義は、周囲分布（ABA型分布）をなしている。『日本語方言辞書—昭和・平成の生活語—』（藤原与一著 東京堂出版）の記述からも、vototoiが持つ語義のつながりの強さが感じられる。

3 vototoi = 兄弟

前述の2 vototoi = 姉妹では、古典平家「おとどい」に対応する「vototoi」が見られるのは「祇王・Guiuō」章段であることをみてきた。7例の「おとどい」の中の1例である。

他の6例をみることにする。天草版平家巻第四第八 大手生田の森の合戦のこと：同じく鶴越を落され、越中の前司が討死のこと。に、6例のvototoiが出現している。比較をする古典平家の代表として、国会本（百二十句系統本の代表として）、高野本（覚一系統本の代表として）との構成を見ることにする。

国会本：巻第九第87句梶原二度の駆、第88句鶴越、高野本：巻第九二度之懸・坂落・越中前司最期、それぞれの小題目とともに、表2として示す。国会本：第87句梶原二度の駆（河原兄弟討死）、高野本：巻第九（河原兄弟、討死）に6例の「おとどい」がある。

表2からは天草版平家の内容が、古典平家の内容と、一対一の関係ではないことが理解できる。

表 2

天草版平家 巻 第 四	卷第九	国会本	卷第九	高野本
第 八 越 大 手 生 田 の 森 の 合 戦 の 事 同 じ く 鴨 越 を 落 さ れ、 越 中 の 前 司 が 討 死 の 事	第87句	一の谷矢合せの事 河原兄弟討死 梶原平次景高の歌の沙汰 景時・景季同心の事	二度之懸	河原兄弟、討死 梶原父子、攻める
	第88句	大鹿二つ落つる事 鞍置馬二匹落さるる事 義経落し給ふ事 平家の屋形炎上 能登守逃れ給ふ事 通盛討死 越中の前司最後	坂落	源平両軍合戦 坂落し
	鴨越		越中前司最期	知盛ら落ちる 盛後と猪俣 盛俊、討たれる

この対校表は「祇王・Guiuō」を巡って 3（『大東文化大学紀要』第 57 号人文科学 2019 年 3 月、P148 の作表）に、高野本の内容を加えたものである。天草版・国会本・高野本の内容把握が容易にできる。

巻第四第八 大手生田の森の合戦のこと：同じく鴨越を落され、越中の前司が討死のこと。は、次のように語りはじめられる。

右馬. して生田の森の方にわなんとあったぞ？

喜. 大手生田の森にわ範頼その勢五万余騎で卯の刻の矢合せと定められたれば、まだ寄せられなんだ。その手に武蔵の国の住人河原太郎、河原次郎と言うて、vototoi^②あったが、河原太郎弟の次郎を呼うで申したわ：(vototoi を^②としたのは、通し番号をつけるためである。)

国会本では、次のようである。

大手生田の森には蒲の冠者範頼、その勢五万余騎。「卯の刻の矢合せ」と定めければ、いまだ寄せず。その手に、武蔵の国の住人、河原の太郎、河原の次郎とて兄弟^{おととい}^②あり。

高野本の冒頭をみると、次のようである。

さるほどに、成田五郎も出きたり。土肥次郎まっさきかけ、其勢七千余騎、色々の旗さしあげ、おめきさけんで攻めたゝかふ。(ここまでの部分が前の「一二之懸」の最終尾として、国会本では収まっている。) 大手、生田の森にも、源氏五万余騎でかためたりけるが、其勢のなかに、武蔵国住人河原太郎・河原次郎といふものあり。(兄弟が欠けている)

続けて、天草版・国会本・高野本と、見て行くことにする。

③. 次郎申したわ：くちをしいことを宣うものかな！ただ vototoi^③あらうずるものが、

- ④ 次郎申しけるは、「口惜しきことをのたまふものかな。ただ兄弟^④あらんずるものが、
- ⑤ 河原次郎涙をはらはらと流ひて、「口惜しい事をのたまふ物かな。たゞ兄弟^⑤二人ある物が、
- ⑥ 河原太郎 vototoi^⑥立ち並うで、仮名実名を名のり、大手の先陣ぞと呼ばわれば、
- ⑦ 河原太郎兄弟^⑦、立ち並うで名のりけるは、「武蔵の国の住人、私の党、私市の高直、同じく次郎守直。源氏の大手の先陣ぞや」とぞ名のりける。
- ⑧ 河原太郎、大音声をあけて、「武蔵国住人河原太郎私高直・同次郎盛直、源氏の大手、生田の森の先陣ぞや」とぞ名のつたる。
- ⑨ 河原 vototoi^⑨立ち並うで、さしつめひきつめさんざんに射る：
- ⑩ 河原太郎兄弟^⑩、立ち並びて、さしつめ、引きつめ、散々に射る。
- ⑪ 是等おとゝい^⑪、究竟の弓の上手なれば、さしつめひきつめさんざんに射るあひだ、
- ⑫ 真名辺が郎等二人打物の鞆をはづいて、河原 vototoi^⑫が首をとっていった。
- ⑬ 真鍋が郎等二人、打物の鞆をはづいて出て、河原兄弟^⑬が首を取ってぞ入りにける。
- ⑭ 真名辺が下人おちあふて、河原兄弟^⑭が頸をとる。
- ⑮ (梶原平三) あら無漸や!これわ私の党のとのばらが不覚でこそこの vototoi^⑮をば討たせたれ：
- ⑯ (梶原平三) これは、私の党の殿ばらが不覚にてこそ、河原兄弟^⑯は討たせたれ。
- ⑰ (梶原平三) 私の党の殿原の不覚でこそ河原兄弟^⑰をば討たせたれ。

古典平家8本で、天草版平家②～⑦の vototoi を見ると、次の様になる。(表3)

表3は、天草版平家 vototoi に対応する古典平家諸本の整理表である。また、表4は、表3以外の古典平家「兄弟」の整理表である。

表3

天草版平家 卷第四第八 ^注	斯道文庫本 卷第九第87句 <small>梶原二度之懸</small>	国会本 梶原二度の駆	京都本 かちはら二どのかけ	龍大本 卷第九二度之懸
② vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	欠
③ vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	きやうだい 兄弟
④ vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	(河原太郎)
⑤ vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	おとゝい
⑥ vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	きやうだい 兄弟
⑦ vototoi	ヲト、イ	おとどい 兄弟	おとゝひ	きやうだい 兄弟

注 大手生田の森の合戦のこと：同じく鶴越を落され、越中の前司が討死のこと。

高野本 二度之懸	葉子十行本 二度懸	流布本 二度の懸	延慶本 九（第五本）廿 源氏 三草山并一谷追落事	備考 天草版
欠	きやうだい 兄弟	おと、い 兄弟	兄弟	武蔵の国の住人河原太郎，河原次郎と言うて，vototoi あったが， (次郎→太郎)
兄弟	兄弟	兄弟		立ち並うで，仮名実名を名のり，大手の先陣ぞと呼ばわれば，
(河原太郎)	(河原太郎)	(河原太郎)		立ち並うで，さしつめひきつめさんぎに射る
おと、い	兄弟	兄弟		(真名辺が郎等二人)河原 vototoi が首をとっていった
兄弟	兄弟	兄弟	きやうだい 兄弟	(梶原平三)この vototoi をば討たせたれ
兄弟	兄弟	兄弟	きやうだい 兄弟	

表 4

天草版 卷第四第八	斯道文庫本 卷第九第 87 句	国会本 卷第九第 87 句	京都本 卷第九第 87 句	龍大本 卷第九	高野本 卷第九
(8) ただ二人	只二人	ただ二人	たゞ二人	たゞ二人	たゞ二人
(9) qiōdai	兄弟	きやうだい 兄弟	きやうだい	おととい	おと、ひ
(10) 河原殿	河原殿	河原殿	かはら殿	おと、い	おと、い

葉子十行本 卷第九	流布本 卷第九	延慶本 九（第五本）廿	備考 天草版
ただ兄弟二人	只兄弟二人		入ったらばなにほどのことがあらうぞ？
兄弟	おと、い 兄弟	おと、い 兄弟	備中の住人真名辺の四郎，五郎と言うて，強弓精兵 qiōdai あったが
きやうだい 兄弟	兄弟		はや城のうちえ入って討たれさせられたと呼ばわったれば

表 3・表 4 から得られるところを簡条書きで示す。

○表 3 (②～⑦) vototoi に対応する古典平家諸本の整理表) から観察されるところを示すことにする。

- 1 百二十句系統本 3 本 (斯道文庫本・国会本・京都本) の「ヲト、イ・兄弟・おとゞひ」は、天草版平家「vototoi」へ、つながる。

斯道文庫本(漢字・片仮名交り本)の「ヲトヽイ」国会本(平仮名本)の「兄弟」京都本(平仮名本)の「おとゞひ」の表記の特徴が、読みの正確さを明示している。

2 一方覚一系統本4本の中で、読みが正確に明示されているのは、龍大本だけである。平仮名書き「おとゞい」の外は、「兄弟」と、漢字に「きやうだい」の振り仮名がある。龍大本では、「おとゞい・兄弟」が天草版平家「vototoi」へと、つながることになる。

高野本・葉子十行本・流布本には、「兄弟」の読みを明示しているものが少ない。葉子十行本②兄弟・流布本②兄弟のみが、振り仮名を持つ「兄弟」である。

百二十句系統本「兄弟」に対して、覚一系統本「兄弟」が注目される。百二十句系統本には「兄弟」が見られない。

○表4(表3以外の古典平家「兄弟」の整理表((8)(9)(10))からは、次の諸点が観察される。

3 最も注目されるのは、天草版平家の「qiödai」である。

天草版	斯道文庫本	国会本	京都本	龍大本	高野本	葉子十行本	流布本	延慶本
(9) qiödai	兄弟	兄弟	きやうだい	おととい	おとゞひ	兄弟	おとゞい 兄弟	おとゞい 兄弟

総じていえば百二十句系統本「兄弟・きやうだい」に対して、覚一系統本は「おとゞい・兄弟」として対応していることになる。

二組の兄弟：河原太郎・次郎と、真名辺四郎・五郎は、どのように表記されているのかを見る。

天草版	斯道文庫本	国会本	京都本	龍大本	高野本	葉子十行本	流布本	
② vototoi	ヲトヽイ	おとゞい 兄弟	おとゞひ	欠	欠	きやうだい 兄弟	おとゞい 兄弟	河原兄弟
(9) qiödai	兄弟	きやうだい 兄弟	きやうだい	おととい	おとゞひ	兄弟	おとゞい 兄弟	真名辺兄弟

なお読み本の代表として延慶本②(9)を参考のためにあげておく。

②武蔵国住人和私ニ河原太郎高直、同次郎盛直兄弟ニ騎馳来テ

(9)備中国住人、真鍋ノ四郎五郎トテ兄弟有ケルガ

百二十句系統本では、2組の兄弟が読み分けられている。

河原太郎・次郎兄弟は、「ヲトヽイ・兄弟・おとゞひ」と、3本の特徴ある表記により、正確な読みができる。また、真名辺四郎・五郎兄弟は、「兄弟・きやうだい」と、正確な読みができる。河原太郎・次郎兄弟の「兄弟」は、天草版平家「vototoi」へ、真名辺四郎・五郎兄弟の「兄弟」は同じく「qiödai」へと、つながる。

4 一方覚一系統本では、真名辺四郎・五郎は「おとゞい・兄弟」と、安定した正確な読みができる。しかし河原太郎・次郎兄弟の読みは、安定感が無い。

龍大本・高野本では、「武蔵国住人河原太郎・河原次郎といふものあり」と、「兄弟」が欠けている。葉子十行本では「兄弟」、流布本では「兄弟」である。したがって、流布本では、河原

太郎・次郎兄弟も、真名辺四郎・五郎兄弟も、ともに「兄弟^{おととい}」である。

二組の兄弟がはっきりと、「兄弟^{おととい}」・「兄弟^{きやうだい}」と正確な読みが出来る百二十句系統本が、天草版平家への依拠本といえよう。

- 5 表4からは、覚一系統本「兄弟」の使用度の高さが注目される。覚一系統本の表現力の豊かさを示す一つの指標と見られる。

他の作品に見られる「おととい=兄弟」の例をあげておく。

- 十訓抄（1252頃）堀川院御とき、おとといにて家綱行綱といふ陪従ありけり
- 延慶本平家物語（1309・1310）齊藤五宗貞、齊藤六家光トテ兄弟^{おととい}アリケル侍ヲ召テ
- 曾我物語（14世紀前半）よそ目をしのびておとゝいはかたりけれども
- 御伽草子・三人法師（室町末）御骨をだにも取るべき者なく候うて、兄弟（オトトヒ）の者其取て箱に入れては候へども
- 広本節用集（文明本節用集）（1474）兄弟^{オトトイ}

4 yffacujit = 一昨日^{いっさくじつ}：おとゝひ・一昨日^{おととひ}

これまで『日葡辞書』vototoi ヲトトイ（一昨日）一昨日 vototoi ヲトトイ（おととひ）年上と年下の二人の兄弟 vototoi ヲトトイ（おととひ）二人の兄弟または姉妹 を基にして、古典平家諸本間と vototoi の比較・吟味をおこなってきた。

2 vototoi = 姉妹では、「祇王・Guiuō」章段に1例みられる「おとゝひ」を吟味した。

表1 古典7本の「おとゝひ」整理表を作り、「おとゝひ」は百二十句系統本・覚一系統本の別なく「vototoi = 姉妹」であることを確認した。また、屋代本「義王義女トテ兄弟アリ」、斯道文庫本「義王義女^{キヤウ}トテ兄弟アリ」から、「兄弟」が男女の区別なく、女性の姉妹にも用いられることを注目した。天草版平家「vototoi」は、古典平家「おとゝひ」に依拠している。

3 vototoi = 兄弟は、天草版平家巻第四 第八 大手生田の森の合戦のこと：同じく鶴越をされ、越中前司が討死のこと。に6例みられる。国会本（百二十句系統本）では、巻第九第87句梶原二度の駆 第88句鶴越に相当し、高野本（覚一系統本）では、巻第九二度之懸 坂落 越中前司最期に相当する。表3 古典平家8本の天草版平家「vototoi」に対応する整理表 表4 表3以外の古典平家「兄弟」の整理表を作り、比較・吟味をおこなった。百二十句系統本「兄弟^{おととい}」が、天草版平家「vototoi」への依拠本となることをみた。

さて、4 yffacujit = 一昨日^{いっさくじつ}：おとゝひ・一昨日^{おととひ} のための資料を順にあげることにする。これまでと同じように古典平家8本と、天草版平家のつながりを見るために、天草版平家、国会本（百二十句系統本の代表として）、高野本（覚一系統本の代表として）の順に示すことにする。

- 1 あるものが、その馬わ yfsacujit までわあったものをと申せば、またあるものがきのうもあったものを、今朝も庭乗りしたものをなどと、口口に申せば、（巻第二 第三 三位入道の嫡子仲綱馬

ゆえに面目を失われたによって、この恥をすすがうずるとて、謀叛ををこされたこと：ならびに競が宗盛をたばかって主の恥をすすいだこと.)

④ 卷第四 第三十四句競 ある者が、「あはれ、その馬は一昨日^{いつさくじつ}までありつるものを」と申す。またある者が、「昨日^{きのふ}も候ひしものを」、「今朝^{けさ}も庭乗り候ひつる」など口口(々)に申せば、

⑤ 卷第四 競 おほくなみりたりける平家の侍共、「あッばれ其馬はおとゝひまでは候し物を」、「昨日も候ひし」、「けさも庭乗り候つる」など申ければ、

2 黄瀬川で yffacujit 人の申したわ：源氏の人数わ二十万騎と申したと、答えたれば、上総の守わこれを聞いて、(卷第二 第十 平家のつわものども鳥の羽音に驚いて、敗軍して面目を失い、京えのほれば、頼朝わ軍に勝って鎌倉え帰られたこと.)

④ 卷第五 第四十八句富士川 木瀬川にて一昨日人の申しつるは、『源氏の御勢二十万騎』とこそ申しつれ。上総守これを聞き、「あはれ、大將軍の心ののびさせ給ひたるほどの口惜しきことは候はず。

⑤ 卷第五 富士川 昨日黄瀬川で人の申候つるは、源氏の御勢は廿万騎とこそ申候つれ。上総守これを聞いて、「あッばれ大將軍の、御心ののびさせ給たる程、口おしい事候はず。

3 頼朝のをん弟義経西国の討手の大將に向わせられたが、iffacujit 御辺の伯父能遠討たれられ、きのう屋島に寄せて、内裏や御所を焼き払い、一日合戦のあったに、(卷第四 第十八 義盛教能をたばかって生け捕ったこと、義経と梶原と戦いに及ばること：同じく平家の一門ことごとく亡びられたこと.)

④ 卷第十一 第三句讒言梶原 鎌倉殿の御弟九郎大夫判官殿、西国の討手の大將に向かはせ給ひたり。一昨日御辺の叔父、桜間の介討たれまるらせぬ。昨日屋島に寄せて、内裏や御所ども焼きはらひ、一日合戦の候ひしに、

⑤ 卷第十一 志度合戦 鎌倉殿の御おとゝ九郎大夫判官殿、院宣をうけ給はって、西国へむかはせ給て候が、一昨日阿波国かつ浦にて、御辺の伯父桜間の介討たれ給ひぬ。昨日八島によせて、御所内裏みな焼きはらひ大臣殿父子いけどりにしたてまつり、

4 義経出やうて見参あって、いかに iffacujit から上られたと聞くに、今までかうと申されぬぞ？また頼朝からを文などわないかと尋ねられたれば、昌尊そのをことでござる：(卷第四 第二十四 昌尊が夜討ちのこと、また頼朝と、範頼不快のこと.)

④ 卷第十二 第十六句堀川夜討 判官出で会ひ、見参し給ひて、「いかに一昨日^{いつさくじつ}より上られ候ふと承るに、今までは『かう』とも申され候はぬやらん。また、鎌倉殿より御文などは候はぬか」と尋ねられければ、昌春、「さん候。

⑤ 卷第十二 土佐房被斬 判官の給ひけるは、(該当文欠。欠文に iffacujit あり)「いかに鎌倉殿より御文はなきか」。「さしたる御事候はぬ間、御文はまいらせられず候。

上記の資料を表5 yffacujit と古典平家8本の整理表としてまとめると、次の様になる。

表 5

	天草版	屋代本	斯道文庫本	国会本	京都本
1	yffacujit	(巻四欠)	一昨日	いつさくじつ 一昨日	一さく日
2	yffacujit	昨日	一昨日	一昨日	一さく日
3	iffacujit	一昨日	一昨日	いつさくじつ 一昨日	一さく日
4	iffacujit	ヲト、イ 一昨日	一昨日	いつさくじつ 一昨日	一さく日

	龍大本	高野本	葉子十行本	流布本	章段名 (国会本)
	おと、ひ	おと、ひ	おととひ 一昨日	おと、ひ 一昨日	第 34 句 競
	きのふ 昨日	昨日	昨日	昨日	第 48 句 富士川
	おととひ 一昨日	をととひ 一昨日	をととひ 一昨日	をと、ひ 一昨日	第 103 句 讒言梶原
	欠	欠	欠	欠	第 116 句 堀川夜討

表 5 から得られるところを簡条書きにして示す。

1 これまでは表 1 vototoi = 姉妹、表 3 vototoi = 兄弟のように、『日葡辞書』にしたがった結果を見てきた。しかし vototoi = 一昨日は、表 5 には見られない。天草版平家に見られる 7 例の「vototoi」は、姉妹 1 例、兄弟 6 例がすべてである。

2 vototoi にかわって、天草版平家には「yffacujit」が見られる。

百二十句系統本の「いつさくじつ 一昨日」は、漢語系の日にち呼称であり、覚一系統本の「おととひ 一昨日」は、和語系の日にち呼称である。諸本により日にち呼称に異なりが見られる。いつさくじつ 一昨日・おととひ 一昨日のように、振り仮名により読みの区別が明示されている。

天草版平家「yffacujit」は、漢語系「いつさくじつ 一昨日」につながっている。

3 表 3・表 4 から vototoi = 兄弟、qiödai = 兄弟を見ると、河原太郎・次郎兄弟は「兄弟」= 「vototoi」、真名辺四郎・五郎兄弟は「兄弟」= 「qiödai」と、和語と漢語により両兄弟を表現していることがわかる。漢語使用効用の一つのあらわれである。流布本は、河原兄弟も真名辺兄弟も同じ「兄弟」である。

4 古態を残す語り本系の「屋代本」に、ヲト、イの振り仮名がみられる。「ヲト、イ 一昨日」の用例を示しておく。

卷第十二 為義顯討手土佐房昌俊上洛事 判官、出合対面シ給テ、「何カニ、ヲト、イ 一昨日被_レ上テ候ト承ルニ、ナト今マテカトモ承リ候ハヌヤ覽。又鎌倉殿ヨリ御文ナトハ候ハヌカ」ト被_レ尋ネケレバ

又、延慶本にも「をととひ 一昨日」が見られる。用例をいくつか示す。

第六本 十二 能盛内左衛門ヲ生虜事 ^{をととひ}一昨日十九日阿波勝浦ニテ、和殿ノ父、民部大夫モ降人ニ参リヌ。

第五未 四 重衡卿内裏ヨリ迎女房事 ^{をととひ}一昨日大路ニテ見マヒラセ候シガ、哀ニ悲ク覚候。

第五本 六 梶原与佐々木馬所望事 ^{をととひ}一昨日親ノタメニ最後ノ仏事仕シ間、^{きのふ}昨日ノ由伊浜ノ兵具ゾロヘニハヅレ候テ、遅参シテ候キ。

第二未 十八 三浦ノ人々兵衛佐ニ尋合奉事 岡崎申ケルハ、「我等モ知進セヌ時ニ、尋奉リテアリクナリ」トテ、^{きのふ}昨日、^{おととひ}一昨日ノ軍ノ物語ヲゾ初ケル。

延慶本には「^{いつさくじつ}一昨日」が見られない。

- 5 古典平家には、^{おととひ}覚一系統本「^{おととひ}一昨日」(和語)、^{いつさくじつ}百二十句系統本「^{いつさくじつ}一昨日」(漢語)の両語形が見られるが、天草版平家は漢語^{いつさくじつ}一昨日につながる。

辞書等にみられる「^{いつさくじつ}一昨日」の例を、あげておく。

- 広本節用集(文明本節用集 1424) ^{イツサクジツ}一昨日
- 落葉集(1598)「^{いつ}一^{さくじつ}ひとつ昨日おととい」
- 片言 安原貞室(1650) ^{きのふ}おと、いといふべきを、^{さくじつ}さくじつ、^{いつ}一^{さくじつ}さくじつといひ
- 日葡辞書(1603) Issacujit (^{いつさくじつ}一昨日) 一昨日 (Issacuya (^{イツサクヤ}一昨夜) : vototoinooyo (一昨日の夜))

作品・辞書等に見られる(おととい=一昨日)の例を、あげておく。

- 源氏物語(1001~14頃) 空蟬 ^{おととひ}おととひよりはらを病みていとわりなければ
- 義経記(室町中期) ^{おととひ}おととひみやこをいで給ひて、大津のうらにつき、^{きのふ}きのふは御船にめされ
- 色葉字類抄 橘忠兼編(1177-1181) ^{ワトトヒ}一昨日
- 名語記(1275) 一昨日を、をととひといへるは乙日也
- 詩学大成抄 惟高妙案(1558-1570) 宿雨ハキノウヲト、イカラフツタ雨ヲ云ゾ
- 天正十八年本節用集(1590) ^{ワトトヒ}一昨日
- 易林本節用集(1597) ^{ワトトヒ}一昨日
- 日葡辞書(1603) vototoi ^{ワトトヒ}ヲトトイ 一昨日

5 おわりに

これまで述べてきた要点を、箇条書きにしてまとめておくことにする。『日葡辞書』にみられる vototoi の語義(一昨日、年上と年下の二人の兄弟、二人の兄弟または姉妹)を核として、天草版平家・古典平家(斯道文庫本・国会本・京都本・龍大本・高野本・葉子十行本・流布本)について比較・吟味をおこなった。その折ごとに用意をした表1 vototoi = 姉妹: 古典平家7本の整理表、表3 vototoi = 兄弟: 古典平家7本の整理表、表4 表3以外の古典平家「兄弟」7本の整理表、表5 yfjacujit と古典平家8本の整理表をもとに、注目すべき項目をとり出したものを表6として新たに

作り、観察の要点は表6を中心におこなうことにする。

表3 vototoi = 兄弟・古典平家の比較では、②～⑦ vototoi 中の②を吟味する。表4では表3以外の古典平家「兄弟」の整理表(8)・(9)・(10)の中で特に注目される(9)を吟味する。表5では、第103句 讒言梶原にあらわれる百二十句系統諸本「一昨日」・覚一系統諸本「一昨日」に注目する。

表6は、次に示すものである。

表6

	天草版	斯道文庫本	国会本	京都本	龍大本	高野本	葉子十行本	流布本	屋代本	延慶本	備考
表1	vototoi	^{キヤウ} 兄弟	おととい	おとゝひ	おとゝい	おとゝい	おととひ	おとゝひ	兄弟	欠	祇王祇女 姉妹
表3②	vototoi	ヲトゝイ	^{おととい} 兄弟	おとゝひ	欠 ^{キヤウダイ} ③(兄弟)	欠 (兄弟)	^{キヤウダイ} 兄弟	^{おとゝい} 兄弟	卷九欠	兄弟	河原太郎・ 次郎兄弟
表4(9)	qiōdai	兄弟	^{キヤウダイ} 兄弟	キヤウダイ	おととい	おとゝひ	兄弟	^{おとゝい} 兄弟	卷九欠	^{おととい} 兄弟	真名辺四郎・ 五郎兄弟
表5	yffacujit	一昨日	^{いつさくじつ} 一昨日	一さく日	^{おととひ} (一昨日 注1 おとゝひ)	^{おととひ} (一昨日 注1 おとゝひ)	^{おととひ} 一昨日	^{おとゝひ} 一昨日	注2 ^{ヲトゝイ} (一昨日)	^{おととひ} 一昨日	第103句 讒言梶原

注1 第34句競(平仮名は2例のみ)

注2 ()内ヲトゝイの振り仮名は第116句堀川夜討のみ

1 姉妹の vototoi は、古典平家諸本・天草版平家ともにあられる。「祇王・Guiuō」章段に1例みられる。平仮名「おとゝい」表記が多い中で、斯道文庫本「^{キヤウ}兄弟アリ」、屋代本「兄弟アリ」が注目される。男女の区別なく、女性の姉妹に用いられる「兄弟」が注目される。

2 兄弟の vototoi は、範頼が率いる一谷大手の生田の森で、河原太郎・次郎の兄弟が、高名をたてようとして兄弟二人で敵陣に突入するが、真名辺兄弟に討たれるという当時の合戦場面に6例出てくる。②は、河原太郎・次郎兄弟を、古典平家諸本がどのように表記しているかを見るためのものである。天草版平家では、「武蔵の国の住人河原太郎、河原次郎と言うて、vototoi あったが」である。百二十句系統本3本は次のようである。斯道文庫本(漢字・片仮名交り本)：ヲトゝイ、国会本(平仮名本)：^{おととい}兄弟、京都本(平仮名本)おとゝいと、それぞれの表記の特徴が、読みを正確に明示している。一方覚一系統諸本では、読みの安定を欠くところがある。百二十句系統本諸本の「^{おととい}兄弟」は、天草版平家「vototoi」へつながる。

3 表4(9) qiōdai は、表3では百二十句諸本に見られなかった「^{キヤウダイ}兄弟」が、あらわれる。国会本では「備中の国の住人、真鍋の四郎、真鍋の五郎とて、強弓の精兵^{キヤウダイ}兄弟あり。」と見える。

百二十句系統諸本の「^{キヤウダイ}兄弟」、覚一系統諸本「^{おととい}兄弟」は、振り仮名により、読みが正確に明示されている。諸本による異なりが見られる。

百二十句系統諸本では、河原兄弟は「^{おととい}兄弟」、真名辺兄弟は「^{キヤウダイ}兄弟」と呼び分けられている。この「^{おととい}兄弟」・「^{キヤウダイ}兄弟」が、天草版平家「vototoi」・「qiōdai」へと、つながる。

4 表5の注目すべき点は、日にち呼称の漢語系「^{いつさくじつ}一昨日」・和語系「^{おととひ}一昨日」の異なりである。漢

語「兄弟」の百二十句系統諸本は、「一昨日」を持つ。和語「兄弟」を同じく表4(9)で持つ覚一系統本は、日にち呼称でも、和語「一昨日」である。

百二十句系統本の「一昨日」は、天草版平家「yffacujit」へとつながる。

5 百二十句系統諸本の表6の吟味から、天草版平家は、百二十句系統本を依拠本とすると言えよう。

表3②百二十句系統本「兄弟」は、vototoiへ。表4(9)百二十句系統本「兄弟」は、qiōdaiへ、表5百二十句系統本「一昨日」は、yffacujitへと見られるのは、振り仮名の正確さによるものである。

6 この論文では、原本の「f」はすべて「j」とした。

参考図書

- 麻原美子・春田宣・松尾葦江編(1990)『屋代本高野本対照平家物語』新典社
斯道文庫編(1970)『百二十句本平家物語』汲古書院
水原一(1979)『平家物語上・中・下』新潮日本古典集成 新潮社
高橋貞一(1973)『平家物語百二十句本』思文閣
梶原正昭・山下宏明(1991・93)『平家物語上・下』新日本古典文学大系 岩波書店
高木市之助・小澤正夫・渥美かをる・金田一春彦(1960)『平家物語上・下』日本古典文学大系 岩波書店
富倉徳次郎(1949)『平家物語 上・中・下』日本古典全書 朝日新聞社
梶原正昭(1984)『平家物語 改訂版』おうふう
北原保雄・小川栄一(1990)『延慶本平家物語 本文篇 上・下』勉誠出版
江口正弘(1986)『天草版平家物語対照本文及び総索引』明治書院
大津雄一・日下力・佐伯真一・桜井陽子編(2010)『平家物語大事典』東京書籍
日本大辞典刊行会(2000)『日本国語大辞典第二版』小学館
中田祝夫・和田利政・北原保雄編(1986)『古語大辞典』小学館
中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義編(1999)『角川古語大辞典』角川書店
室町時代語辞典編修委員会編(2001)『時代別国語大辞典室町時代編』三省堂
国語学会編(1962)『国語学辞典』東京堂
佐藤喜代治編(1977)『国語学研究事典』明治書院
飛田良文編集主幹(2007)『日本語学研究事典』明治書院
東条操(1951)『全国方言辞典』東京堂出版
徳川宗賢(1989)『日本方言大辞典』小学館
平山輝男編集代表(1992~1994)『現代日本語方言大辞典』明治書院

(2019年9月26日受理)